

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																							
広島ビューティーアート専門学校		平成25年4月1日	三川 和輝		〒732-0821 広島県広島市南区大須賀町15番24号 (電話) 082-568-6821																							
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																							
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日	屋間 一彦		〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																							
衛生	衛生専門課程	トータルビューティー科		平成22年文部科学省告示第26号	—																							
学科の目的																												
「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、美容の関連分野において活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技術を教授することを目的としている。																												
認定年月日																												
平成28年2月19日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																					
2	昼間	62単位	76単位	352単位	2単位	0	0																					
生徒総定員																												
160人		生徒実員		留學生数(生徒実員の内)		専任教員数																						
190名		1人		10人		兼任教員数																						
						総教員数																						
						30人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法とする。 教科ごとに定められた評価方法で、評価する際、100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入し、5点法に換算する。その後、授業態度、出席状況を考慮しランクの上下を認める。																						
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月10日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月 7日 ■学年末: 3月21日～3月31日			卒業・進級条件		教育課程の修了や卒業は、所定の過程を終了し試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して認める。																						
学支支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 年2回の個人面談は必須。また状況に応じて、本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。			課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動 地域の美容・ブライダル関連企業のイベントへの参加																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) エステティックサロン・ネイルサロン・結婚式場・化粧品売り場、フォトスタジオ等			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 業界講話・卒業生講話・会社説明会・模擬面接指導・履歴書指導・そのほか電話・企業訪問・お礼状指導など					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トータルメイクアップ検定(ベーシック)</td> <td>③</td> <td>98名</td> <td>98名</td> </tr> <tr> <td>AEA上級認定エステティシャン</td> <td>③</td> <td>35名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト技能検定3級</td> <td>③</td> <td>92名</td> <td>85名</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定</td> <td>③</td> <td>91名</td> <td>88名</td> </tr> <tr> <td>着付け検定</td> <td>③</td> <td>37名</td> <td>37名</td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	トータルメイクアップ検定(ベーシック)	③	98名	98名	AEA上級認定エステティシャン	③	35名	35名	ネイリスト技能検定3級	③	92名	85名	パーソナルカラー検定	③	91名	88名	着付け検定
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																									
トータルメイクアップ検定(ベーシック)	③	98名	98名																									
AEA上級認定エステティシャン	③	35名	35名																									
ネイリスト技能検定3級	③	92名	85名																									
パーソナルカラー検定	③	91名	88名																									
着付け検定	③	37名	37名																									
■卒業生数: 83人 ■就職希望者数: 77人 ■就職者数: 77人 ■就職率: 100% ■卒業生に占める就職者の割合: 92.7% ■その他 ・進学者数: 4人 ・結婚: 2人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)					※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
■自由記述欄																												
中途退学の現状	■中途退学者: 19名 平成28年4月1日時点において、在学者190名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者171名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 目標喪失、経済的理由、精神疾患等 ■中退防止・中退者支援のための取組 5月より個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見・解決する。 欠席が続く生徒については、早い段階で保護者へ電話連絡をし保護者の協力を仰ぐ。 入学前と入学後のギャップを埋めるため、入学直前の3月に入学者予定者向けと保護者向けに学校生活や実習・就職に関する説明会を実施している。			■中退率: 10%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度:美容・ブライダル業界に貢献できる有能な人材を育成するために、学業・人物ともに優秀な生徒を対象に、授業料の免除制度を実施。特待生の種類に応じて、免除額の変動あり。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																											
当該学科のホームページURL	http://www.sanko.ac.jp/hiroshima-beauty/																											

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留學生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称・受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係		
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 美容系企業・関連協会等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や目標検定設定、授業方法の改善・工夫に活かす。 (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項 (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項 (3)教科書・教材の選定に関する事項 (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項 また、施設実習をとおし、美容の現場における従事者として実践的な技術を習得するとともに、業界の動向や求められる人材を把握するため、研究会等との連携を図ることで、現場の求めるニーズを確実にとらえ、本校の授業内容シラバスやカリキュラムに反映する。また実務能力レベルをはかる資格・検定取得に向けても取得率の向上に向けて学習指導方法の見直し、改善に努めることも目的としている。さらに実習先である施設に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足するあるいは必要とされる能力を把握する。これらのことにより得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に活かす。 (2)教育課程編成委員会等の位置付け 教育課程編成委員会構成員は広島ビューティーアート専門学校と企業関係者等の役職者から成るものとし、審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。 【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】 企業関係者等の外部委員より、専攻分野に關した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒアリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。 さらに、前年度の問題点をピックアップし、企業関係者等の外部委員からの見識のある改善意見も集約する。 ↓ 【教育課程編成の科目詳細決め及び教育課程編成の決定】 委員会構成員の中の広島ビューティーアート専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程を完成させる。(姉妹校統一のものは、仮案を作成し、さらに「BA委員会」にて協議決定となる。) ↓ 【BA委員会(各ビューティーアート専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】 委員会構成員の中の広島ビューティーアート専門学校教員による教育課程の仮案(姉妹校統一のもの)に基づいて、再度、BA委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。 (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿		
平成29年9月5日現在		
名前	所 属	任期 種別
藤田 善洋	(有)ウイスタリアフィールド	平成29年6月1日～平成31年3月31日(2年間) ③
宮本 裕司	日本エステティック業協会	平成29年6月1日～平成31年3月31日(2年間) ①
末安 由香	広島ビューティーアート専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年間)
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員		
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 毎年、年に2回実施するものとする。ただし、委員が緊急に教育課程の改善が必要であると判断した場合には、随時、委員会開催を申し入れることが出来るといった弾力的な体制を取っている。 (開催日時) 第1回 平成27年1月26日 13:00～15:00 第2回 平成27年6月30日 13:00～15:00 第3回 平成28年2月 2日 13:00～15:00 第4回 平成28年5月19日 14:00～16:00 第5回 平成29年6月21日 15:00～17:00 第6回 平成29年12月19日 15:00～17:00(予定)		
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 「模擬サロン強化」「カウンセリング・おもてなし強化」を教育の指針として達成するため、意見交換を行った。その中で、教員(教える技術)のレベルアップが課題として確認された。メーカーの受け売り、試験対策が主となってしまい、実務につなげる授業展開がなかなかできていない現状がある。知識だけでなく、ティーチングスキルの研修を強化すること、ロールプレイングや実践の場を多く作ることができるよう、平成29年度にむけて、盛り込むことが確認された。		
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 基本方針として「お客様を美しくすることで感謝される」「サロン・組織を活性化できる人材を育成する」という本校人材育成方針のもと関連企業等との連携で実践的かつ専門的な職業教育を実施していくこと。 美容業界においては技術力と接客力が重要であるという不変のものであり、双方を兼ね備えることで長く業界で活躍することで、業界の発展にも繋がっていくことから、本校教育理念である「技能(知識・技術・理論)」と「心(人間教育・対人基礎力)」の調和をもとに授業計画から本校教員も参加し、「技術・理論の習得レベル」及び「マナー」・「コミュニケーション」など現場に即した内容を検討、そして定期的に授業の振り返りを行い継続的かつ改善工夫を実施している。 企業等と連携することで、より早く現場の変化や課題に対する対応及び教育への反映し、本校そして業界の求める「人材の育成」に貢献できると考える。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 本校教育課程、必修科目である施設実習において、本校と取り交わした職業教育協定書に従い、実習に向けた事前指導(オリエンテーション)、実習期間中の現場指導、実践補助、実習終了時の指導、評価を通じて、「実務卓越性を目指した教育課程における技能・技術の向上、業界において必要とされる知識、ならびに職業観を育むに足る新技術・知識の修得を目指した職業実践的教育の実施」を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ベーシックメイクⅠ	メイクアップ化粧品の特徴と適切な使用方法を理解すると同時に、スキンケア～メイクアップテクニックをマスターしフルメイク基礎技術を身に付ける。	株式会社ビーイング
ベーシックメイクⅡ	資格取得の技術と知識を身に付け、顔分析力、パーソナルメイクアップテクニックを身に付ける。	株式会社ビーイング
ビューティーカウンセリング	メイク業界で仕事をしていくための基礎知識。各化粧品メーカーの分析、肌知識からのカウンセリングテクニック、接客技術	株式会社ビーイング
検定メイク	資格取得の為のメイク基礎知識技術を身に付け、カウンセリングメイク応用技術を習得する。	株式会社ビーイング
パーソナルメイクⅠ	顔の分析、カラー診断、イメージに合わせて演習	株式会社ビーイング

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>																									
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>実践的かつ専門的な職業教育を実施し、美容・ブライダル業界を担う「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで社会に貢献できる人材」、「お客様を美しくすることで感謝される。サロン・組織を活性化できる人材」を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修 ・指導力の修得・向上のための研修 ・アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修 <p>なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。</p>																									
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成28年8月22日 担任教員職員対象 今後の美容・ブライダル業界に向けて(クレイジーウェディング 山川咲様) 2) 平成28年8月23日 担任教員職員対象 美容・ブライダル業界における求められる人材(株)ノバレーゼ高橋麻菜美様 他) 3) 平成28年8月26日 全教職員対象 新入社員を見て、今後の生徒指導に活かすこと (IKK(株) 光岡侑美様/株福屋 木原章太郎様/株ソシエワールド 箕作早苗様/株YOU-2 田中延恵様) 4) 平成28年8月21日 全教職員対象 業界に長く働き続けるために、学生時代に学ぶべきこと (株スクエアファウンテン 田中美風様/ホテルメルバルクHIROSHIMA 丸山かおり様/株そごう・西武 丸岡妙子様 <p>株ビ・メイク 山本陽子様)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5) 平成29年8月23日 担任教員職員対象 美容・ブライダル業界の現状(株ユミ・クリエイション 木下美穂里様他6名) <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成28年3月17日 全教職員対象 年間授業シラバスにおけるアクティブラーニング手法導入の具体例共有 (本校教務主任 森下圭) 2) 平成28年3月29日 全教職員対象 目指す人材育成像を達成するために、日ごろの教務に取り組むべきこと (本学園理事 森岡孝之) 3) 平成28年8月 9日 3年目教職員対象 中堅教職員としてリーダーシップ論及び仕事の進め方に関する研修(株日本教育クリエイト) 4) 平成28年8月22日 担任教職員対象 日常の生徒指導におけるモチベーション向上・維持にむけて等 (本校教職員発表) 5) 平成28年9月16日 全教職員対象 アンガーマネジメント研修 (株実践教育ラボ) 6) 平成28年11月19・20日 中堅教職員対象 次世代リーダー研修 7) 平成29年3月30日 全教職員 目指す育成人材像(本学園理事 早崎 祐治) 8) 平成29年3月31日 全教職員 アクティブラーニングの具体的な導入事例共有(本校教務担当 渡邊亜子) 9) 平成29年8月 1日 中堅教職員対象 気付く・きく・見逃さない・伝える研修(本学園教育開発部) 10) 平成29年9月25日 全教職員 生徒の心を動かす教育方法(株アビリティトレーニング 木下晴弘様) 11) 平成29年10月21・22日 中堅教職員対象 次世代リーダー研修 																									
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>平成29年度分は上記のとおり実施済</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成29年10月28・29日 中堅教職員対象 次世代リーダー研修 																									
<p>4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p>																									
<p>(1) 学校関係者評価の基本方針</p> <p>学校関係者として、美容業界の企業様や卒業生・地域団体住民・高校関係者等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。</p> <p>学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。</p>																									
<p>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td>(1) 教育理念・目標</td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td>(2) 学校運営</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td>(3) 教育活動</td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td>(4) 学修成果</td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td>(5) 学生支援</td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td>(6) 教育環境</td> </tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> </tr> <tr> <td>(8) 財務</td> <td>(8) 財務</td> </tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td> <td>(9) 法令等の遵守</td> </tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td> </tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td> <td>(11) 国際交流</td> </tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標	(2) 学校運営	(2) 学校運営	(3) 教育活動	(3) 教育活動	(4) 学修成果	(4) 学修成果	(5) 学生支援	(5) 学生支援	(6) 教育環境	(6) 教育環境	(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集	(8) 財務	(8) 財務	(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守	(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献	(11) 国際交流	(11) 国際交流
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標																								
(2) 学校運営	(2) 学校運営																								
(3) 教育活動	(3) 教育活動																								
(4) 学修成果	(4) 学修成果																								
(5) 学生支援	(5) 学生支援																								
(6) 教育環境	(6) 教育環境																								
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集																								
(8) 財務	(8) 財務																								
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守																								
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献																								
(11) 国際交流	(11) 国際交流																								

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)教育理念・目標
【意見】標榜する内容と教育内容に齟齬があるとは思えない。より主体的に行動し周囲と良好な関係を築いて働ける人材の育成を目指してほしい。
【活用状況】卒業生の現場での勤務の様子を訪問および電話等にて聞き取り把握し、また密に現場との連携を取れるようサロン訪問等を強化しており、情報収集に励んでいる。校内サロンや各種学校行事において、自発的な行動、周知との連携を視野においた教育活動を行っている。

(3)教育活動
【意見】あいさつ、出欠状況、協調性、といった一般的な生活習慣、および基礎技術・基礎知識については、お客様に納得してもらえるレベルまで学校で身につけてほしい。また接客に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力も身につけてほしい。
【活用状況】基本的な生活習慣の修得については、全教員会議での周知徹底と、毎授業ごとの状況把握・伝達を目的とした連絡ボードを活用し、タイムリーな指導を実施している。基礎技術・基礎知識については、校内サロン(実際にお客様を呼び、施術を行う特別授業)において、お客様視点に立ったサービスの提供とお客様へのカウンセリング・説明等を通して実践力を磨く機会を提供している。

(4)学修成果
【意見】離職率低下のために、卒業後も卒業生との連携をはかり、早期退職へのフォロー体制を整えてほしい。
【活用状況】卒業生専用のキャリア支援サイト等を告知、活用して、フォローを行う。また卒業生就業先への訪問及び電話等での聞き取りを実施し、近況の把握と必要に応じた助言・指導を行っている。

(5)学生支援
【意見】卒業生、保護者ともに自分から相談しなければ学校とのつながりが持てないのが現状であり、より密接な連携を取るために必要な情報発信をしてほしい。
【活用状況】入学時保護者会を実施し、学校との相互連携体制の共通認識構築をはかった。これに伴い、適宜学内での様子の電話での報告共有をはかり、またホームページや各種SNS等による学内の様子を発信、情報提供を行っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿 平成29年9月5日現在

名前	所属	任期	種別
空 恵子	RADIA株式会社	平成29年6月16日～平成30年3月31日	関連企業
田中 加代子	株式会社ビーチエ	平成29年6月16日～平成30年3月31日	関連企業
生沼 作都	飛鳥未来高等学校 広島キャンパス	平成29年6月16日～平成30年3月31日	高等学校教諭
金永 真利那	本校卒業生	平成29年6月16日～平成30年3月31日	卒業生
末安 由香	広島ビューティーアート専門学校	平成29年6月16日～平成30年3月31日	本校教職員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <http://www.sanko.ac.jp/disclosure/> (平成29年7月公開)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応策等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択にあたっての有用な情報を提供すると共に、一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習、就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2)各学科等の教育	●三幸学園の教育
(3)教職員	●講師紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●学内実習 ●インターンシップ
(5)様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●企業・地域コラボレーション
(6)学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7)学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8)学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費支出計算書
(9)学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。
(3)情報提供方法
URL: <http://sanko.ac.jp/hiroshima-beauty/>

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスマナー	検定取得を目指し、敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など、社会人としての考え方をはじめ、ルールやマナーを学ぶ授業です。	1年	66	4	○			○		○		
○			カラーコーディネート	ファッションコーディネートの現場で即戦力となれるように、色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に着けます。パーソナルカラーコーディネートの資格取得を目指物の形をよく観察する力と洞察力を養うことでより深く芸術を理解できます。またデザイン力から応用することによりコミュニケーション能力を高めることが出来ます。	1年	66	4	○			○			○	
○			デッサン・イラストレーション	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1年前期	32	2	○			○			○	
○			未来デザインプログラムⅠ	皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・皮膚の基礎知識 ・美容上大切な皮膚の6つの働き	1年	33	2	○			○			○	
○			皮膚学Ⅰ	皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・肌の美しさを損ねる要因・様々な肌状態 ・肌と環境・肌分析	1年前期	32	2	○			○			○	
○			皮膚学Ⅱ	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する ・骨格系・筋系・神経系	1年後期	34	2	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する ・内分泌系・呼吸器系・循環器系・消化器系 ・生殖器系	1年前期	32	2	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する ・5大栄養素 ・栄養所要量 ・食物摂取とその消化吸収	1年後期	34	2	○			○			○	
○			栄養学Ⅰ	合計	科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法

授業期間等

1学年の学期区分	期
1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			香粧品学Ⅰ	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。・化粧品概論・ネイル、メイク、ヘアケア化粧品・フレグランス・化粧品の原料	1年前期	16	1	○			○	○			
○			エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅰ	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。・法の基礎知識・公衆衛生・衛生管理	1年前期	16	1	○			○	○			
○			ベーシックエステⅠ	身体や皮膚の生理機能に基づいたフェイシャル・ボディリートメントを学び、エステティックの流れ、基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解する。	1年前期	64	4	△	○		○	○			
○			ベーシックネイルⅠ	JNECネイリスト技能検定3級取得を目指し、ネイルケア～カラーリング・アートまでのネイルの基礎を学ぶ	1年前期	64	4	△	○		○			○	
○			ベーシックメイクⅠ	メイクアップ化粧品の特徴と適切な使用方法を理解すると同時に、スキンケア～メイクアップテクニックをマスターしフルメイク基礎技術を身に付ける。	1年前期	64	4	△	○		○			○	○
○			就職対策Ⅰ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導します。	1年前期	33	2	○			○	○			
○			栄養学Ⅱ	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。・栄養学から見た食品・健康と栄養・サプリメント・食品添加物	1年後期	17	1	○			○	○			
○			香粧品学Ⅱ	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。・フェイシャル、ボディ化粧品・化粧品に用いられる薬剤とその働き	1年後期	17	1	○			○	○			
○			エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。・経済行為、人の身体に直接関連する法律	1年後期	17	1	○			○	○			
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ベーシックエステⅡ	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合ったフェイシャル・ボディトリートメントを理解する。	1年後期	34	2	△	○		○	○			
○			エステティックカウンセリングⅠ	一人ひとりの心や体の悩みの相談に応じて人間的な理解を深めて、悩みを解決へと導く心理学に基づく療法を理解する。	1年後期	17	1	○	△		○	○			
○			プロフェイシャルⅠ	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を学び肌の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身につける	1年後期	68	4	△	○		○	○			
○			プロボディⅠ	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を学び身体の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身につける	1年後期	68	4	△	○		○	○			
○			アロマセラピー	アロマセラピーの基礎知識、トリートメント法や嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学を学ぶ。・アロマセラピーのための健康学、メカニズム・法律問題・資格制度	1年後期	34	2	△	○		○	○			
○			アロマセラピーⅠ	アロマセラピーの基礎知識を学ぶ。 ・精油の基礎知識・プロフィール ・利用法・歴史・環境	1年後期	17	1	△	○		○	○			
○			アロマセラピーⅡ	アロマセラピーの基礎知識、トリートメント法や嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学を学ぶ。・アロマセラピーのための健康学、メカニズム・法律問題・資格制度	1年後期	34	2	△	○		○	○			
○			フェイシャル&ボディⅠ	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合ったトリートメントを理解する。	1年後期	68	4	△	○		○	○			
○			ベーシックネイルⅡ	ベーシックネイルⅠに続き、JNECネイリスト技能検定2級課題であるチップラップ(付け爪)の技術の基礎から応用までを学ぶ	1年後期	34	2	△	○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		スカルプチュア	JNECネイリスト技能検定1級の課題の一つとなっている、アクリル樹脂のパウダーとリキッドを使用した付け爪で、短い爪の長さを出す技術を学ぶ	1年後期	51	3	△	○		○			○		
	○		ネイルケア&ネイルアートⅠ	ネイル技術のすべての基礎であるネイルケアとネイルアートの技術向上を目指す授業	1年後期	51	3	△	○		○				○	
	○		検定対策Ⅰ	JNECネイリスト技能検定2～3級とJNAジェルネイル技能検定初級の取得を目指し技術強化していく授業	1年後期	51	3	△	○		○				○	
	○		ジェルネイルⅠ	JNAジェルネイル技能検定初級の取得を含め、ジェルネイルについての技術・知識を学ぶ授業	1年後期	51	3	△	○		○				○	
	○		コンテストⅠ	ネイルのコンペティションの出場を目指し、技術強化していく授業	1年後期	17	1		○		○				○	
	○		サロンワークⅠ(ネイル)	卒業後のサロンワークを想定し、集客・接客なども含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び、実際にお客様をお呼びして施術を行っていく	1年後期	51	3		○		○				○	
	○		ネイルアートⅠ	JNECネイリスト技能検定2～3級の取得を目指し技術強化していく授業	1年後期	34	2	△	○		○				○	
	○		ネイル演習	JNECネイリスト技能検定2～3級の取得を目指し技術強化していく授業	1年後期	68	4	△	○		○				○	
	○		ベーシックメイクⅡ	資格取得の技術と知識を身に付け、顔分析力、パーソナルメイクアップテクニックを身に付ける。	1年後期	34	2	△	○		○				○	○
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビューティー カウンセリング	メイク業界で仕事をしていくための基礎知識 各化粧品メーカーの分析、肌知識からのカウ ンセリングテクニック、接客技術	1 年後期	34	2	△	○		○			○	○
○			検定メイク	資格取得の為のメイク基礎知識技術を身に付 け、カウンセリングメイク応用技術を習得す る。	1 年後期	51	3	△	○		○			○	○
○			ヘアアレンジ Ⅰ	頭部・骨格の名称、ブロッキングの方法等を 学習した後、ホットカーラー、ピン打ち、黒ゴ ムの結び方、編み込み、コテの使い方等の基礎 テクニック習得を目指す。	1 年後期	68	4	△	○		○			○	○
○			ヘアアレンジ Ⅲ	ヘア道具の特徴と適切な使用方法を理解する と同時に、ヘアアレンジの基礎～応用知識、 技術を学び身に付ける。	1 年後期	34	2	△	○		○			○	○
○			パーソナル メイクⅠ	顔の分析、カラー診断、イメージに合わせて 演習	1 年後期	51	3	△	○		○			○	○
○			パーソナル メイクⅡ	資格取得の技術と知識を身に付け、顔分析 力、パーソナルメイクアップテクニックを身 に付ける。	1 年後期	34	2	△	○		○			○	○
○			ヘア&メイク Ⅰ	メイク検定アドバンスの対策を行い、撮 影、ブライダル、アーティストと現場に必要 な技術と知識を習得する	1 年後期	51	3	△	○		○			○	
○			成功の法則Ⅱ	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、 7つの項目を習慣化することにより成功する 為の力を養う。	2 年前期	16	1	○			○		○		
○			就職対策Ⅱ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエン トリ方法や実践的な面接指導、そして内定後 までの流れを指導します。	2 年	33	2	○			○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		着付けⅠ	着物文化の指導者としての検定取得を目指し、着付けの技術や着装の指導など、着物全般に対するアドバイスを行うための知識を習得します。	2年	66	4	△	○		○			○	
		○		着付けⅡ	着物文化の指導者としての検定取得を目指し、着付けの技術や着装の指導など、着物全般に対するアドバイスを行うための知識を習得します。	2年	32	2	△	○		○			○	
		○		エステティックカウンセリングⅡ	顧客の悩みや状態について原因・要因を考え、的確に状態を見極め、カウンセリングシートを作成する。お手入れとアドバイスを専門的に行える知識を身につける	2年	66	4	○	△		○			○	
		○		エステティックカウンセリングⅢ	顧客の悩みや状態について原因・要因を考え、的確に状態を見極め、お手入れとアドバイスを専門的に行える知識を身につける	2年	33	2	○	△		○			○	
		○		プロフェイシャルⅡ	フェイシャルテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得 ・コンサルテーション・エステティック機器 ・ハンドテクニック・接客マナー	2年	198	12	△	○		○			○	
		○		プロフェイシャルⅢ	フェイシャルテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得 ・コンサルテーション・エステティック機器 ・ハンドテクニック・接客マナー	2年	132	8	△	○		○			○	
		○		プロボディⅡ	ボディテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得 ・コンサルテーション・エステティック機器 ・ハンドテクニック・接客マナー	2年	132	8	△	○		○			○	
		○		エステティック総論	エステティック知識総合（資格試験対応） ・皮膚学・生理解剖学・栄養学 ・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学	2年	66	4	○			○			○	
		○		エステティック総論Ⅰ	エステティック知識総合（資格試験対応） ・皮膚学・生理解剖学・栄養学 ・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学	2年	133	8	○			○			○	
合計					科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エステティック 総論Ⅱ	エステティック知識総合（資格試験対応） ・皮膚学・生理解剖学・栄養学 ・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気	2 年	66	4	○			○		○		
○			トリートメン ト	選択科目の知識、技術を学ぶ ・WAX脱毛・東洋医学・フットケア ・リンパドレナージュ・アーユルヴェーダー ・タラソセラピー・ストーンセラピー	2 年	99	6	△	○		○		○		
○			フェイシャル マニピレー ション	応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロフェイシャルで学 んだハンドテクニック技術、知識を深める	2 年	132	8	△	○		○		○		
○			フェイシャル スキンケア	応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロフェイシャルで学 んだフェイシャル機器の技術、知識を深め る	2 年	132	8	△	○		○		○		
○			ボディ ベーシック	応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロボディで学んだハ ンドテクニック技術、知識を深める	2 年	132	8	△	○		○		○		
○			ボディ テクニカル	応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロボディで学んだボ ディ機器の技術、知識を深める	2 年	132	8	△	○		○		○		
○			ボディ リラクゼー ション	応用トリートメント ベーシックエステ、プロボディで学んだハ ンドテクニック、知識を深める。体質別・ トラブル別の施術を提案できるようになる	2 年	66	4	△	○		○		○		
○			サロンワーク （プロ）	マーケティング・サロンマネジメント・顧 客管理について学び、サロン運営を行う	2 年	99	6	△	○		○		○		
○			サロンワーク （エステ）	マーケティング・サロンマネジメント・顧 客管理について学び、サロン運営を行う	2 年	66	4	△	○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アロマ セラピー総論 I	エステティック知識総合 (H専攻対応) ・スキンタッチと効果・脳の誕生と進化 ・機能・脳神経の構造と働き ・心と肥満の関わり・ハーブのプロフィール	2年	99	6	○	△		○	○			
○			アロマ セラピー総論 II	エステティック知識総合 (TBコース対応) ・スキンタッチと効果・脳の誕生と進化 ・機能・脳神経の構造と働き ・心と肥満のかかわり・ハーブのプロフィール	2年	33	2	○	△		○	○			
○			アロマ セラピー 検定対策 I	アロマセラピー検定対策 (H専攻対応) アロマセラピー I で学んだ知識の総復習	2年前	16	1	○	△		○	○			
○			アロマ セラピー 検定対策 II	アロマセラピー検定対策 (TBコース対応) アロマセラピー I で学んだ知識の総復習	2年	33	2	○	△		○	○			
○			国際 エステティッ ク理論	選択科目の知識を学ぶ ・WAX脱毛・東洋医学・フットケア ・リンパドレナージュ・アーユルヴェーダー ・タラソセラピー・フラワーレメディ	2年後期	17	1	○			○	○			
○			国際 エステティッ ク演習	選択科目の技術を学ぶ ・WAX脱毛・東洋医学・フットケア ・リンパドレナージュ・アーユルヴェーダー ・タラソセラピー・ストーンセラピー	2年	132	8		○		○	○			
○			フェイシャル & ボディ II	フェイシャル&ボディ I で学んだエステティック機器の使用法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合ったトリートメントの理解を深める	2年	132	8	△	○		○	○			
○			ネイルケア& ネイルアート II	ネイル技術のすべての基礎であるネイルケアとネイルアートの技術向上を目指す授業	2年	99	6	△	○		○	○			
○			検定対策 II	JNECネイリスト技能検定 2～1級とJNAジェルネイル技能検定中級～上級の取得を目指し技術強化していく授業	2年	132	8	△	○		○	○			
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		検定対策Ⅱ・スカルプチャー	JNECネイリスト技能検定2～1級取得を目指し技術強化していく授業	2年	132	8	△	○		○			○		
	○		ジェルネイルⅡ	JNAジェルネイル技能検定中級～上級の取得を含め、ジェルネイルについての技術・知識を学ぶ授業	2年	132	8	△	○		○				○	
	○		コンテストⅡ	ネイルのコンペティションの出場を目指し、技術強化していく授業	2年	66	4		○		○				○	
	○		ネイルケア	ネイル技術のすべての基礎であるネイルケア(ハンド・フットの両方)の技術向上を目指す授業	2年	99	6	△	○		○				○	
	○		ネイルアートⅡ	フラットアート・3Dアートやエアブラシなど基礎的なアートから高度なアート技術までの全てを学ぶ	2年	99	6	△	○		○				○	
	○		サロンワークⅡ(ネイル)	卒業後のサロンワークを想定し、集客・接客なども含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び、実際にお客様をお呼びして施術を行い、マシーン技術なども学んでいく	2年	99	6		○		○				○	
	○		検定対策&ジェル	JNECネイリスト技能検定2級とJNAジェルネイル技能検定初級の取得を目指し技術強化していく授業	2年	132	8	△	○		○				○	
	○		ヘアアレンジ	ヘアアレンジに必要な道具の使い方から、アップスタイル・ダウンスタイルや、着物・ドレス・袴など服装に合わせたアレンジなど幅広く対応できるテクニックを身に着ける。	2年	66	4	△	○		○				○	○
	○		ヘアアレンジⅡ	頭部・骨格の名称、ブロッキングの方法等を学習した後、ホットカーラー、ピン打ち、黒ゴムの結び方、編み込み、コテの使い方等の基礎テクニック習得を目指す。	2年	99	6	△	○		○				○	○
合計																
					科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ビューティー カウンセラー メイク	幅広いメイクアップの技術とや肌の知識、 カウンセリング方法等、ビューティーカウ ンセラーになる為の知識や技術を学ぶ。	2 年	132	8	△	○		○			○	○
	○		ブライダル メイク	様々なドレスや季節に合ったメイク、列席 者のメイクを学ぶ。その他、ブライダルの 歴史等幅広く習得できる。	2 年	99	6	△	○		○			○	○
	○		特殊メイク	特殊メイク（傷・アザ・火傷・切断）・ア ニマルメイク・ボディジュエリーなど、エア ブラシや様々な道具を使用し、撮影や現場 で実践できる多様な技術を学びます。	2 年	99	6		○		○			○	
	○		アーティスト メイク	ショーメイクからスチールメイク、年代別 メイクまで、シーンに合わせたメイクの研 究や違い、特徴をとらえた技術を学びます	2 年	99	6		○		○			○	
	○		フォト	光と影、写真のバランスについての撮影練 習から、ライト・ストロボの関係性を実習 を通して学んでいきます	2 年前期	16	1		○		○			○	
	○		ファッション	メイクとファッションの関係性からファッ シオントレンドを研究し、メイクデッサン や表現方法を学びます	2 年後期	17	1	△	○		○			○	
	○		ヘア&メイク Ⅱ	洋装・和装を含めたシーン別のヘアスタ イルが作れ、提案できる技術を習得する。 現場をふまえ、お互いに相モデルで技術を 行う	2 年	132	8	△	○		○			○	
	○		トータル メイク	メイク検定アドヴァンスの対策を行い、撮 影、ブライダル、アーティストと現場に必 要な技術と知識を習得する	2 年	99	6	△	○		○			○	
	○		サロンワーク (メイク)	卒業後のサロンワークを想定し集客接客な どを含めサロンの開店準備からオープンま での全てを学び実際に置く約様をお呼びし て施術を行っている	2 年	132	8	△	○		○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	期
		1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		サロンワーク (トータル)	卒業後のサロンワークを想定し、集客・接客なども含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び、実際にお客様をお呼びして施術を行い、マシーン技術なども学んでいく	2年	66	4	△	○		○			○	
○			施設実習	現場での実習勤務を通して、1日及び1週間の流れを学び、お客様を迎えるまでの準備や施術中の役割の理解を深め、接客の基本姿勢を学んでいく		80	2			○		○	○		
	○		ブライダル知識Ⅰ	ABC検定取得に向けて、日本・欧米の結婚式の歴史や文化、風習、会場やテーブルのコーディネーター、ペーパーアイテム、演出プラン、引き出物等の、幅広い業界知識の基礎を学ぶ。	1年後期	33	2	○			○		○		
	○		テーブルマナー	テーブルセッティング、食器の種類から始まり、洋食(フレンチ・イタリアン)・中華・和食・ドリンク・お菓子のマナーや歴史を、講義と演習で学ぶ	1年後期	32	2	○	△		○		○		
	○		ドレスデザイン	主に洋装の新郎新婦の衣装の歴史、形、素材、アクセサリ、フィッティング小物、等の知識を学ぶ。また、接客時の立たせ方や座らせ方、靴の履き方などアテンド方法も学ぶ。	1年後期	32	2	○	△		○			○	
	○		パーティプロデュースⅠ	ウエディングプランナーとして、現場で様々な挙式披露宴をプランニングできる様にする為の基礎知識を学ぶ。実際に数パターンテーマを決めて、プランニングの演習も行っていく。	1年後期	32	2	△	○		○		○		
	○		パソコン演習Ⅰ	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成、エクセルでの表計算など、パソコンの技能を習得します。	1年後期	34	2	△	○		○			○	
	○		ブライダル実践Ⅰ	結婚式場での新規接客(会場案内・セールスなど)をロールプレイングしながら学ぶ。	1年後期	34	2	△	○		○		○		
	○		ブライダル知識Ⅱ	ABC検定に向けて神前式、仏前、人前、キリスト式の、宗派による式次第や用語等の違いを理解する。また、新規客の成約までの流れやパッケージプランの提案について学ぶ。	2年	66	4	○			○		○		
合計															

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		パソコン実習Ⅱ	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成など、パソコンの技能を習得します。またブライダル業界に必要なパワーポイントや案内状、席次表の作成なども行います。	2年	66	4	△	○		○			○		
	○		ブライダル実践Ⅱ	結婚式の打ち合わせのための接客をロールプレイングしながら学ぶ。また、ブライダルフェアの新規提案などのプレゼンテーションも行う。	2年	132	8		○			○				
	○		ドレススタイリング	ドレスの素材や、インナー・パニエなどの扱い方、メンテナンス方法・採寸直しの裁縫・パーソナルカラー・メンズスーツ・和装衣装の種類・歴史等を講義と演習を通して学ぶ	2年	66	4	△	○		○				○	
	○		ブライダルメイクⅠ	ドレスに合ったメイクなどパーソナルなメイクの技術習得やメイク検定に向けて基礎～応用までのメイク技術を学ぶ	2年	66	4	△	○		○				○	
	○		ブライダルメイクⅡ	メイク検定アドバンス取得を目指して、テーマ毎に合わせたメイクの技術習得やクイックチェンジ(色直し用メイク)を学び、最終的には子コース内のフォトコンテストや卒業制作を行う	2年	99	6	△	○		○				○	
	○		ブライダルヘアレンジ	人頭で洋装スタイルや和装スタイル、ブローの仕方、お色直し時のヘアチェンジ、生花のつけ方などを学び、最終的には卒業制作を行う	2年	66	4	△	○		○				○	
	○		フラワーアレンジ	花の取り扱い、道具の使用方法、ブライダルシーンで作成する花の種類、形を学び、実際にテーマに合わせたブーケや、テーブルフラワー等、様々な花を演習形式で学ぶ。	2年	66	4	△	○		○				○	
	○		フラワーアレンジⅡ	挙式、披露宴の演出としてのイメージを膨らませ、ドレス・スタイリング、会場の装飾等と総合的に勘案したフラワーをアレンジ、飾りつけできるように実践形式で学ぶ。	2年	99	6	△	○		○				○	
	○		ブライダルプロジェクト	新郎新婦を募り、挙式の段取り、演出等の打ち合わせ、花嫁のドレスコーディネート、挙式までの事前準備等を含め実際の挙式と同様の準備を行い挙式を創り上げる。外部会場との折衝も行い挙式・披露宴を挙げる。	2年	66	4	△	○		○			○		
合計															科目	単位時間(430単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件) 教育課程の修了や卒業は、所定の過程を終了し試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して認める。		1学年の学期区分	前後期
(履修方法) 指定された必修科目と選択必修科目(1年次7科目18単位以上、2年次6科目46単位以上)の中から必要な科目を履修		1学期の授業期間	前期16週 後期17

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。